

国際シンポジウム「大学における研究データ管理の 意義と支援人材育成」

Darch, Peter

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校情報学部 : 助教

Downie, J. Stephen

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校情報学部 : 教授

富浦, 洋一

九州大学データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門 : 部門長

石田, 栄美

九州大学データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門 : 教授

<https://doi.org/10.15017/6790816>

出版情報 : 2023-06-19. University of Illinois Urbana Champaign

バージョン :

権利関係 :

ライブラリーサイエンス専攻の 研究データ管理支援人材履修証明プログラム

石田 栄美

九州大学

データ駆動イノベーション推進本部

研究データ管理支援部門

June 19, 2023



九州大学



九州大学

研究データ管理支援人材育成の必要性

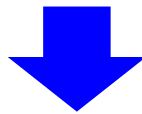
2

- 『第6期科学技術・イノベーション基本計画』(2021年3月閣議決定)
 - 大学等の研究機関は、新たな研究システムの構築のために「信頼性のある研究データの適切な管理・利活用促進のための環境整備」と強化が喫緊の課題
- 文部科学省「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会による審議のまとめ」(2023年2月)
 - 「大学図書館職員は、これまでの業務に加え、研究データの管理にも携わることになるため、大学における学問の在り方や研究のライフサイクルを理解することが不可欠であり、その中で自らが行う支援がどのような機能として位置づけられるか認識し、適切にそれを行っていく」



- 研究データ管理支援にも積極的にかかわる必要性
 - 研究データ管理に向けた環境整備
 - 研究者が適切に、また効率的に研究データを管理することができるような支援人材

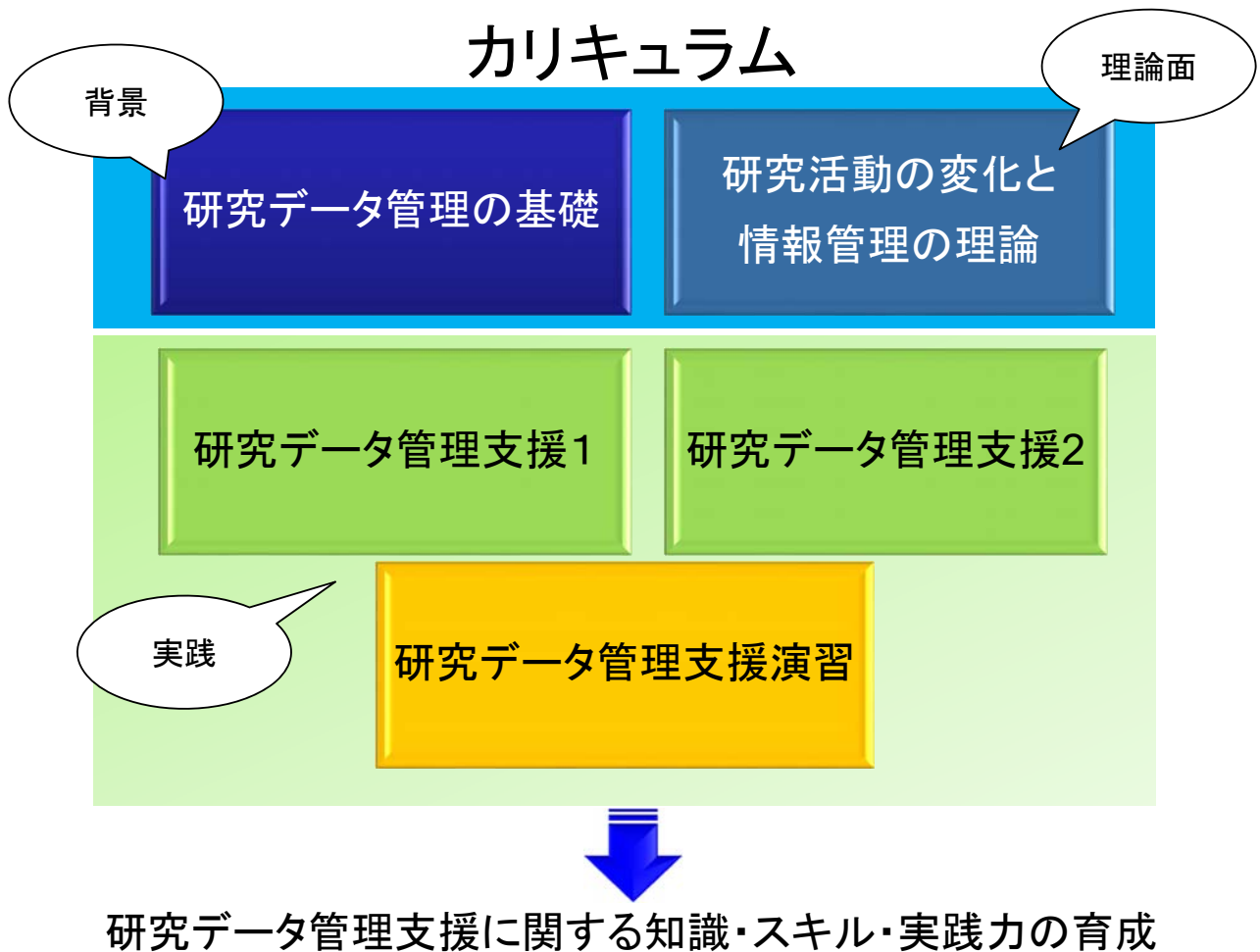
- 統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻(2011年3月～)
 - ユーザーの視点に立った新たな情報の管理と提供の場を提案
 - 高度な情報専門職の育成
- 研究データ管理支援部門(2022年4月～)
 - 研究データの情報基盤
 - 研究データ管理に関する人的支援
 - 研究データ管理を支援する人材の育成(実践の場の提供)



- 研究データ管理(RDM)支援人材育成に関する履修証明プログラムの設置
 - 社会人が主な対象
 - 2023年10月～

- 育成する人材像
 - 研究データ管理の遂行にあたり適切な支援ができる人材
 - 各々の研究組織において研究データ管理支援のための体制構築やサービス設計ができる人材
 - 研究データ管理支援人材として組織を超えたネットワークを構築できる人材
- 想定する履修者
 - 大学をはじめとする研究機関の大学図書館職員、URA、研究推進に関わる部署等の実務家
 - 大学院生
- プログラム概要
 - プログラム構成:5科目5単位
 - 1年間で履修可能(秋学期から翌年度の春学期まで)
 - 対面授業(集中講義)とオンラインの授業の組み合わせ

カリキュラム



■「研究データ管理基礎」(15時間・1単位)

■ 概要

研究データ管理支援の適切な遂行には、データ管理に関する社会的ニーズ、研究データ管理に関する研究機関の役割等についての理解が必須である。本講義では、研究データ管理の背景を把握し、大学等の研究機関における研究データ管理の意義や支援の必要性を理解する。

■ 項目

- 研究データ管理とは(本プログラムの概要、イントロダクション)
- データに関する世界的潮流(オープンサイエンス、オープンアクセス、オープンデータ)
- 国のデータに関する政策
- 研究データ管理の意義と必要性(オープンデータと研究データ管理の関係)
- 大学における情報ガバナンス(研究DX、教育DX等)
- 大学における研究データポリシー
- 研究データ管理における大学図書館の役割
- 研究データ管理支援者の役割

■「研究活動の変化と情報管理の理論」(15時間・1単位)

■ 概要

研究データ管理支援者は、研究者の研究ライフサイクルに合わせた支援を行う必要がある。そのため、本講義では、まず、研究活動や学術情報流通の変化、データライフサイクル等についての基礎知識を得て、図書館情報学・アーカイブズ学・記録管理学における情報管理の理論についても学ぶ。研究に用いられる資料や情報を、適切に管理・提供していくために、必要となる情報管理の原理や原則、その方法論について基本的な知識を得る。

■ 項目

- 研究行為と研究ライフサイクル
- データ駆動型研究とデータライフサイクル
- 学術情報とデータの流通
- データの保存と再利用
- 図書館情報学における情報管理の原則
- アーカイブズにおける情報管理の原則(保存、評価・選別・廃棄に関する基本的な考え方)

■「研究データ管理支援1」(15時間・1単位)

■「研究データ管理支援2」(15時間・1単位)

■ 概要

研究のライフサイクルに沿って、どのような研究データ管理支援が必要なのか、支援サービスの概要について学ぶ。本講義では、海外を中心とした先駆的な研究データ管理支援サービスの事例、支援体制の構築や支援サービスの設計方法、データマネジメント教育の必要性、そして、研究前にあたるデータ管理計画(DMP)の作成に関する支援、研究遂行中のデータの組織化等の知識、研究後にあたるデータの公開・保存に向けた基盤整備、公開に向けたデータの準備、リポジトリへの登録方法に関して必要な準備・支援を修得する。また、研究データ管理支援にあたって、支援人材に求められるマインドセットについても議論する。

■「研究データ管理支援1、2」のつづき

■ 項目

- 研究データサービスの先進事例
- 支援体制の構築とサービスの設計
- データマネジメント教育
- 研究前:研究データの定義と留意すべきデータ
- 研究前:データ管理計画(DMP)に関する支援(概説・演習)
- 研究中:研究データの組織化(ファイル命名法、フォルダ構造等)
- 研究中:研究データの組織化(研究室・共同研究における研究データの組織化、データ継承のための準備)
- 研究後:データの公開・保存のための基盤整備(データリポジトリ等)
- 研究後:公開に向けたデータに関するポリシー等の確認事項
- 研究後:公開に向けたデータの準備(クリーニング、データセットの確認、Readmeファイルの確認、メタデータの付与)
- 研究後:リポジトリへの登録
- 研究データ管理支援人材のマインドセット

■「研究データ管理支援実習」(15時間・1単位)

■ 概要

本講義では、機関ごとの実情や性質に応じた研究データ管理支援サービスを、支援人材が運用する際に必要となる知識を各種実習および議論を通じて習得する。具体的には、研究データ管理支援サービスの実務経験者による実践例の共有と、これに関連した演習を実施する。さらに、履修生と実務経験者との議論、履修生同士の議論を通じて、研究データ管理支援サービスの運用に関する実践的な知識と技能の修得を目指す。

■ 項目

- 研究者に対するニーズ調査の手法
- 研究者へのインタビュー:事前準備・実践・評価
- 研究データ管理支援サービスの提案
- 研究者への支援サービスの実践例
- 研究者への支援サービス実践に向けた議論

■「研究データ管理の基礎」

- 2023年10月14日(土)・15日(日)の対面での集中講義(必須)
- (土日にそれぞれ4コマずつ、1コマ90分)
- 場所:九州大学伊都キャンパス

■「研究活動の変化と情報管理の理論」

- 2023年11月以降の土曜日にそれぞれ4コマ、2日間で終了
- オンラインのライブ授業

■その他の3科目

- 2023年4月以降の土曜日に設定予定
- オンラインのライブ授業

■備考

- 基本的に土曜日を予定
- 授業スケジュールについては、来週以降、ホームページ上で発表
- 履修者との相談でスケジュールが変更されることがある

■ 募集人員:10名程度

■ 出願期間(2023年10月入学):

2023年6月26日(月)~7月11日(火)必着

*九州大学の院生は出願手続き不要

■ 出願手続に必要な書類

- (1) 入学願書、(2) 履歴書、(3) 出願理由書、
- (4) 最終学校卒業証明書・成績証明書
- (5) 定型封筒(住所・氏名を明記し、94円切手を添付したもの)
- (6) 検定料の銀行振込証明書の写し

■ 検定料・受講料

- 検定料:9,800円
- 入学料:28,200円 + 受講料:74,000円

■ 詳しい情報

ライブラリーサイエンス専攻ホームページ

<https://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/lss/lss-07-00/>